

令和6年度 第4四半期（1月～3月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 5.7 ポイント悪化、
令和5年度第4四半期からは 1.5 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲10.5（前期比▲5.7、前年同期比▲1.5）、来期見通し（4月～6月）については▲15.3（当期比▲4.8）となった。

製造業・サービス業以外の業種において DI 値が前期比マイナスとなった。原材料価格や人件費の増加が採算を圧迫している、物価高が消費者の需要低迷を招いている、従業員の確保が難しいとの声が複数の業界から聞かれた。海外情勢や気候変動が業況に及ぼす影響を懸念する声もあがった。

設備投資については、「実施した」との回答が 35.6（前期比▲6.2、前年同期比▲1.7）、来期に設備投資を「計画している」との回答は 38.6（当期比+3.0）となった。

■製造業

業況 DI 値は▲1.6（前期比+7.5、前年同期比+15.6）、来期の見通しについては▲16.7（当期比▲15.1）となった。

中国や欧州の市場に好転の兆しが見える、モバイル関連は好調だとの声があった一方、食品製造業を中心に原材料の不足・価格高騰を問題視する声があった。また、印刷業・木工業では需要の停滞、IT・電子関連では人員不足、自動車関連ではトランプ政権による関税発動の影響を懸念する声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲27.8（前期比▲27.8、前年同期比▲20.1）、来期の見通しについては▲16.7（当期比+11.1）となった。

人件費をはじめとする諸経費が上昇している、物価高や少子高齢化の影響で住宅の需要が減り始めている、後継者や下請業者の確保が難しい等、先行きを不安視する声が多かった。一方で、官民ともに需要は堅調である、受注価格が上がっている、リフォーム関連は安定しているとの明るい声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

調査概要

●調査対象

- (1)対象地区：豊橋市内 325 社
- (2)回答企業数：135 社 (41.5%)

●調査期間

令和7年1月～3月

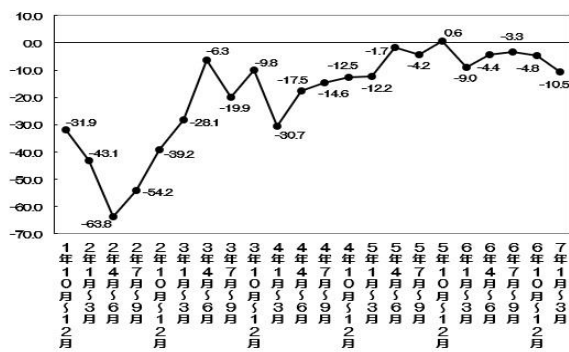
●調査方法

往復はがき、FAX、Google Form

●回答企業の内訳

製造業 64・建設業 18・卸売業 17
小売業 16・運輸業 11・サービス業 9

全業種



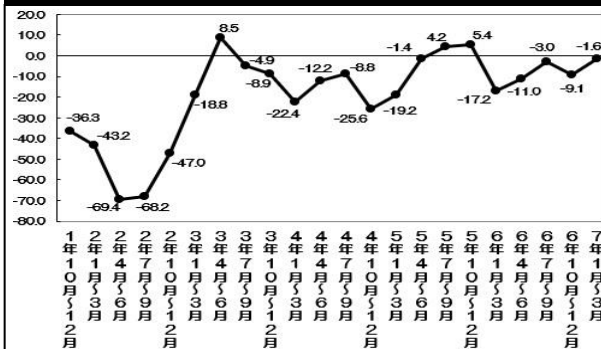
《A》前年同期（令和6年1月～3月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↓
18.0%	53.4%	28.6%	▲10.5%	

《B》来期（令和7年4月～6月）の景況見通し

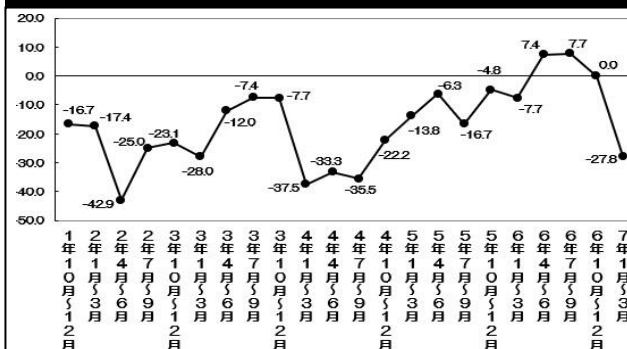
良い	同様	悪い	DI値	↓
11.5%	61.8%	26.7%	▲15.3%	

製造業



【前年同期比】	令和6年1～3月	【来期見通し】	令和7年4～6月
自社の業況	▲1.6 ↑	自社の業況	▲16.7 ↓

建設業



【前年同期比】	令和6年1～3月	【来期見通し】	令和7年4～6月
自社の業況	▲27.8 ↓	自社の業況	▲16.7 ↑

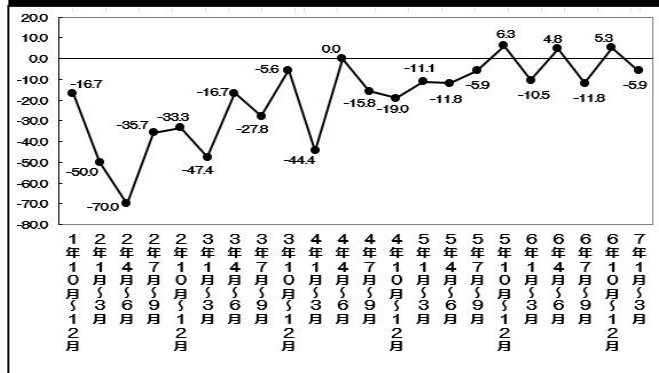
■卸売業

業況 DI 値は▲5.9（前期比▲11.2、前年同期比＋4.6）、来期の見通しについては▲11.8（当期比▲5.9）となった。

全体的に、仕入価格の上昇により利益が確保できない、価格転嫁が十分にはできていないとの声が多かった。また、天候の影響で商品が思うように確保できない、長引く物価高の影響で需要が低迷しているとの声もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

卸売業



【前年同期比】 令和6年1～3月

自社の業況 ▲5.9 ↑

【来期見通し】 令和7年4～6月

自社の業況 ▲11.8 ↓

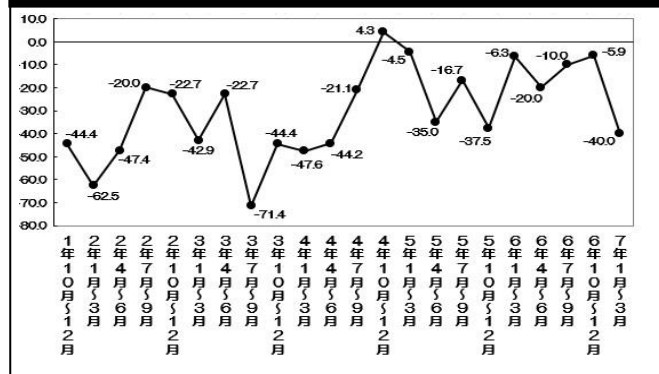
■小売業

業況 DI 値は▲40.0（前期比▲34.1、前年同期比▲33.7）、来期の見通しについては▲25.0（当期比＋15.0）となった。

事務機器小売業では大口の案件が少ない、衣料品小売業では消費者の動きが停滞している、仕入価格の上昇により採算が悪化しているとのことであった。他に、従業員の確保難、取引先の倒産や廃業の話聞くようになった等の声もあがった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

小売業



【前年同期比】 令和6年1～3月

自社の業況 ▲40.0 ↓

【来期見通し】 令和7年4～6月

自社の業況 ▲25.0 ↑

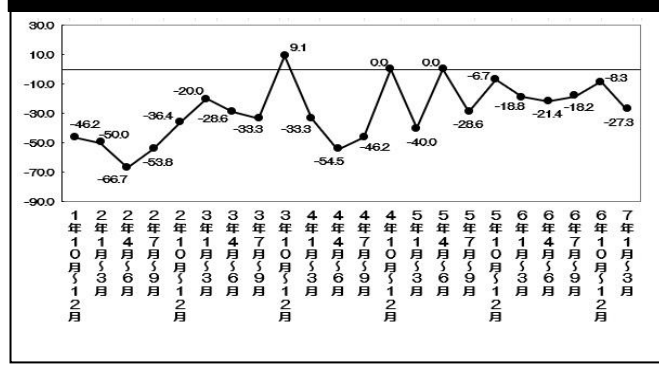
■運輸業

業況 DI 値は▲27.3（前期比▲19.0、前年同期比▲8.5）、来期の見通しについては▲9.1（当期比＋18.2）となった。

価格改定に応じてくれた顧客がある一方で、運送量が大きく増える見込みはないとの声が多かった。燃料費や修繕費の上昇が大きい、顧客からの増便要望に人手不足で対応しきれない、車両が故障しても部品不足で修理が追い付かない等の声もあった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

運輸業



【前年同期比】 令和6年1～3月

自社の業況 ▲27.3 ↓

【来期見通し】 令和7年4～6月

自社の業況 ▲9.1 ↑

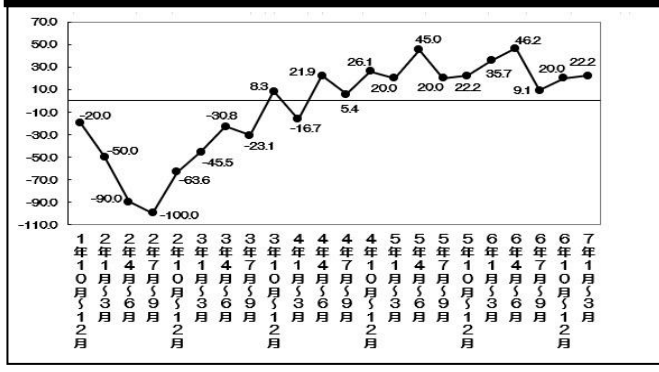
■サービス業

業況 DI 値は＋22.2（前期比＋2.2、前年同期比▲13.5）、来期の見通しについては±0.0（当期比▲22.2）となった。

業況は横ばいとの回答が多い中、レンタル業や飲食店では、需要は堅調である、価格改定を実現できた等の声が聞かれた。一方で、トレーニングジム業では他店との競争が激化している、屋外広告業では仕入価格の上昇が懸念材料であるとの声もあった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

サービス業



【前年同期比】 令和6年1～3月

自社の業況 22.2 ↓

【来期見通し】 令和7年4～6月

自社の業況 0.0 ↓